

平成28年度 総合福祉施設「京都桂川園」事業報告書

1. 事業総括

今年度の重点項目は職員が希望をもって働き続けられる職場環境づくりでした。福祉業界の人材確保や定着は年々厳しさを増し桂川園も例外ではありませんでした。年度当初、新規職員が採用後、数週間で就労を断念する方が複数あり現場は混乱しました。昨年度より運用している「新人育成ハンドブック」を見直し、職員の個性に応じた教育と、チームでの育成・ヒアリングを重視した内容に変更しました。その効果か、6月以降は離職が大幅に減りました。人材育成での課題は中堅職員や管理職教育です。この層にむけた集中研修に取り組みましたが成果はまだ途上です。ケアにおいては利用者の個性を重視した取組をさらに進めました。経営面では高齢通所部門で、廃止者と新規利用者のバランスが取れず稼働率を低下させました。障害部門は久世障害デイ・ショートステイで目標に近い稼働率を達成しました。入所部門も入院が少なく黒字決算となりました。次年度より指定管理施設での賃貸料支出が課せられます。各部署は稼働率を意識した質の高いサービスでの事業が、安定した経営となることを再認識し次年度の事業計画をしました、地域との連携では地域包括支援センターが中心となり、住民を巻き込んだの徘徊模擬訓練や、従来のコミュニティーカフェに加え、健康維持や居場所づくりとして毎週ラジオ体操を開催しました。地域の方に加え、デイ利用者、入所者も参加し相互交流があり予想以上の効果がありました。楽しみと生きがいの場とそれをつなぐ専門職の重要性を実感しました。全戸訪問で把握した、引きこもり気味の方に提案できる場ともなりました。

2. 重点実施項目

① 人材の定着とキャリア向上、働きやすい職場づくり

副主任会議で検討を重ね一昨年から使用の「新人育成ハンドブック」を修正し、話し合いと個人の特性を重視した育成で定着率は上がり成果を出すことが出来ました。各部署は「チームみんなで育てる」大切さを実感しながら育成しました。人材の定着では10年以上のベテランや就労2.3年目の職員が年度末に退職し離職率は10%以上となりました。中堅職員の育成での課題が明らかになりました。ベテラン職員とはいえない行動、業務遂行などがあり改善対策を実施しました。明るい兆しとしては現場の理解や職員配置で、出産・育児休業から復帰する職員が多くなりました。法人内で保育所の開設も女性職員の多い職場では希望となりました。8月には「ワークライフバランス推進認証事業所」として認可されました。取組が遅れていた、敷地内全面禁煙も防犯対策の検討から、各部署で話し合いを進め12月より開始しました。

② 経営

高齢部門の通所で稼働率低下があり、特に認知症デイではここ2年ほど利用者の減少に歯止めがかからず、大幅な減収となりました。要因分析をし、新規利用者開拓に向けて特色を出したリーフレットなどを作成し、年度末にはやや増加傾向に転じました。障害部門は全体に増収となりました。入所・ショート部門はインフルエンザの影響でショートステイを一時閉鎖したことでの減収がありましたが、介護・看護の良好な連携、毎月の研修会議で観察力が増し異常の早期発見・受診で入院減となり経営に良い影響の一要因となりました。次年度に向けて職員給与問題で課題を残しました。人材の確保、新たな処遇改善加算の取得や近年のキャリア志向への対応で給与の見直し検討をしました。しかし法人内高齢者施設での職員処遇の統一の方針もあり、時間的な面で検討不足となり次年度以降に持ち越しとしました。重度者への入浴負担を軽減し業務改善や居室でも入浴可能なミスト浴機器を購入しました。

③ 地域のと関わり・ケア

コミュニティーカフェたまかふえは、地域の居場所、専門職と出会える場として定着しました。毎回30名以上の参加があり地域の役員も毎回参加され、住民の方が利用しやすくなっています。増回の計画は新たに健康づくりサービス・居場所としてのラジオ体操の定期開催に伴い、職員体制での負担があり、従来通りの実施となりました。地域連携は地域ケア会議での徘徊模擬訓練などを通じてより深まりました。「桂川園20周年記念行事」への準備は具体的な実施までには至りませんでしたが、職員の意識化は出来ました。利用者ケアは個性の重視、自立支援を柱にケアプランを作成し実施しました。家族への情報提供や利用者への説明不足でプラン実施の意図が十分に伝わっていない面があり次年度の課題です。

3. 桂川園の利用者の状況

1) 特別養護老人ホーム

事業名	平均介護度	稼働日数	年間延べ利用者数	1日平均利用者数	稼働率
特別養護老人ホーム（定員 50 名）	4.2	365 日	17,684 人	48.5 人	96.9%
短期入所生活介護（定員 4 名）	3.1	365 日	1,321 人	3.6 人	90.5%

2) 障害者支援施設

事業名	平均障害程度区分	稼働日数	年間延べ利用者数	1日平均利用者数	稼働率
療護園[施設入所支援事業]（定員 40 名）	5.9	365 日	14,262 人	39.1 人	97.6%
療護園[生活介護事業]（定員 40 名）	5.9	269 日	10,213 人	38.0 人	94.9%
療護園[短期入所事業]（定員 4 名）	5.4	365 日	1,404 人	3.9 人	96.1%

3) 居宅介護支援事業所

事業名	プラン作成件数	平均担当件数	新規契約数	訪問調査数
居宅介護支援事業	141.9 件(月平均)	31.9 件	14 件	83 件

4) 地域包括支援センター

事業名	予防プラン作成件数	相談件数	新規契約数	訪問調査数
地域包括支援センター	3,331 件	7,819 件	91 件	387 件

5) デイサービス事業

事業名	定員	平均要介護度	稼働日数	年間延べ利用者数	1日平均利用者数	稼働率
併設通常規模型 通所介護事業	30 名	2.5	310 日	7,695 人	28.3 人	94.2%
介護予防通所介護事業		—		1,068 人		
認知症対応型 通所介護事業(玉頭の家)	10 名	2.9	310 日	2,195 人	7.1 人	70.8%
生活介護事業（桂川障害デイ）	20 名	5.1	259 日	5,131 人	19.9 人	99.0%

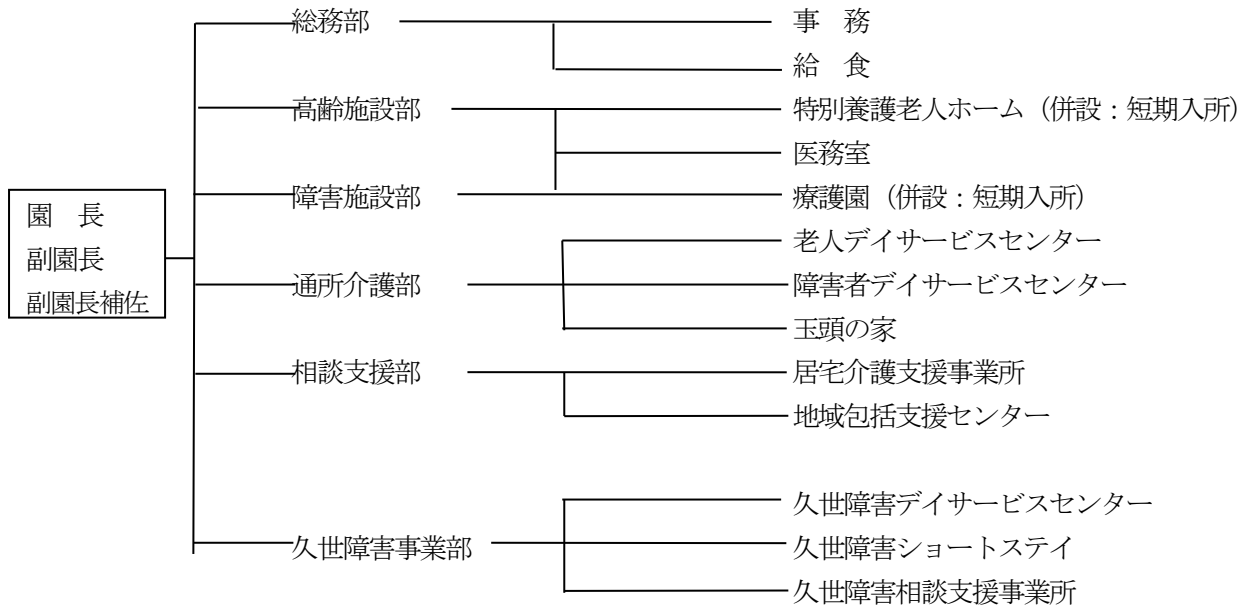
6) 久世障害事業

事業名	定員	平均障害程度区分度	稼働日数	年間延べ利用者数	1日平均利用者数	稼働率
生活介護事業（久世障害デイ）	25 名	4.9	259 日	4,875 人	18.9 人	75.2%
短期入所事業（久世障害ショート）	6 名	5.3	365 日	2,100 人	5.8 人	95.8%
久世障害相談支援所	—	—	—	39 件	—	—

7) 配食サービス

事業名	稼働日数	年間延べ利用者数	1日平均利用者数
配食サービス事業（学区：川岡東、川岡、桂東、桂徳）	261 日	8,182 人	31.4 人

3. 平成 28 年度 京都桂川園体制表



4. 職員数

平成 29 年 3 月 31 日現在 (単位: 人)

事業名	正職員	非常勤職員	パート・アルバイト	派遣	合計	備考
特別養護老人ホーム	20	2	9	3	34	
療護園	20	3	8	5	36	
老人デイサービスセンター	8	3	6	0	17	
障害者デイサービスセンター	4	1	4	2	11	
居宅介護支援事業所	5	0	0	0	5	
地域包括支援センター (委託)	5	0	0	0	5	
地域包括支援センター (予防)	3	0	2	0	5	
玉頭の家	5	0	2	0	7	
久世障害事業	10	3	3	1	17	
総務部 (園長・副園長を含む)	8	3	2	0	13	栄養士・運転手・洗濯機を含む
合計	88	15	36	11	150	

5. 実習の受入実績

(単位：人)

実習内容	人数	延べ人数	備考
介護・社会福祉士実習	11	140	
看護・医療実習	39	165	
栄養士実習	0	0	
介護職員初任者実習	0	0	
京都府介護等体験	13	65	
社会奉仕体験	15	28	
施設見学実習	39	39	
障害者訓練委託	0	0	
保育実習	2	22	
合 計	119	459	

6. ボランティアの活動実績

延べ人数 (単位：人)

区 分	共通	特養	療護	老・障 デイ	認デイ	久世 デイ	包括	合 計
レクリエーション等・喫茶補助	0	32	71	109	18	3	43	276
日常生活補助(洗濯・食事・整容等)	637	14	14	109	24	0	0	798
傾聴ボランティア	0	21	0	0	0	0	0	21
園芸(屋上・玄関周り等)	258	0	0	0	12	0	0	270
近隣小学生のキッズボランティア	84	2	23	101	0	0	4	214
合 計	979	69	108	319	54	3	47	1,579

7. 職員研修の実績

(単位：人)

研修内容	人数	延べ人数	備考
介護に係る研修	12	16	
ケアプランに係る研修	4	9	
ケアマネジャーに係る研修	20	34	
人権、権利擁護に係る研修	15	15	
認知症に係る研修	9	15	
医療に係る研修	15	24	
栄養に係る研修	4	4	
高齢者及び障害者等の研究大会	4	5	
実習指導者に係る研修	1	4	
その他の研修	36	54	
合 計	120	180	